

粕谷和夫の観察日記より。高月水田に冬鳥のタヒバリが帰ってきました（'写真上）。カウントしたら40羽以上が田んぼで採餌していました。留鳥で同じ仲間のセグロセキレイが長い旅路を帰ってきたタヒバリを出迎えているような表情に見えました（写真下）。

紅葉台



新聞

第217号

2026年

1月17日

発行人：関谷 孝

湧水散歩 お鷹の道・真姿の池



12月3日晚秋の紅葉が一段と美しい風景の中を歩く湧水散歩道。国分寺から西国分寺までを地域の歴史に詳しい植木さんと探訪しました。国分寺崖線の中でも豊富な湧水と景観が保護されているお鷹の道・真姿の池湧水群は野川の最源流の一つで有名なところです。

今でも水路が家々の周りを巡り、蛙が生息している地域。自然保護への人々の思いが伝わってきました。

お鷹の道は、江戸時代の鷹狩の道。市内の村々は、尾張徳川家の御鷹場に指定されていました。それにちなんで崖線下の湧水が集まり野川に注ぐ清流沿いの小道を「お鷹の道」と名付け、現在約350mが遊歩道として整備されています。国分寺を代表する街並みとともに名所として親しまれています。水路には清らかな湧水が流れ、クレソンやカラーの花が群生していました。コサギが水辺で餌を探しているのにも出会いました。



真姿の池は平安時代、玉造小町が池の水で身を清めたところ病が言えたという伝説によっています。池の西側に位置する国分寺には、『医王山縁起』というお寺の縁起が残されています。それによると、嘉祥元年（848年）不治の病に苦しんだ玉造小町が病気に苦しみ、病気平癒のために国分寺を訪れて21日間薬師如来を参拝しました。すると一人の童子が現れ、小町を池のほとりに案内し、この池の水で洗い清めるよう

と言ってすぐに姿を消しました。小町が身を清めると、いつの日か病は癒え、元の姿（真姿）に戻ったそうです。この言い伝えによって「真姿の池」と呼ばれるようになりました。現在は弁財天（管理：糸萬園）が祀られています。



「お鷹の道・真姿の池湧水群」は平成15年に東京の名湧水57選にも選定されています。一帯には国分寺境内、真姿の池、お鷹の水のほか民地にいくつもの湧水があります。付近の人達は湧水の流れを「カワ」（カワ）と呼び、水道になるまで、飲み水、炊事、風呂、洗い物など一切を賄っていたといいます。水路には水



音から「ボンボ」と呼ばれる洗い場が今も残っていました。また、民家では地場で採れた野菜や果物（この時期は柿が鈴なりになっていました）を軒先で売っていました。覗いてみると自分の敷地で採れた野菜や果物とのこと。無人販売で箱にお金を入れま

す。そんな風景が紅葉と相まって郷愁を覚えます。

途中に史跡の駅「おたカフェ」があります。森の中の無料のお休みどころ。国分寺の野菜や果物を使ったメニューをお愉しみ出来ます。また、国分寺の名産品も展示販売していました。目の前には、お鷹の道湧水園と武蔵国分寺資料館があり、そちらのチケットも販売していました。



西に進むと地名の由来になっている「国分寺」があります。江戸時代の1733年に復興された新しい国分寺。国分寺建立は、奈良時代に東大寺を建立し大仏を造立した聖武天皇の詔による全国規模で展開された一大公共事業。なかでも武蔵国に建築された国分寺は最大規模を誇るものだったようです。1333年鎌倉幕府討伐を目指して、小手指ヶ原の戦い、久留米側の戦いに勝ち、勢いによって突き進む新田義貞の軍勢がこの寺に火を放ち焼失させられてしまったのです。武蔵国分寺跡と武蔵国分尼寺跡が公園として整備されていました。広大な土地を史跡として保護している国分寺はまさに歴史の町です。



武蔵野線沿いに旧鎌倉街道の切通しが残されています。鎌倉時代の武士たちはこの道を駆けて将軍のもとへ向かいました。そこから西国分寺駅に向かいます。立派な国分寺市役所前の道には、東山道が一部発掘され保存されていました。見どころ満載の2時間の散歩コース。春には桜も咲いて散歩にお勧めです。

（駅の観光案内所で散策地図が貰えます）

粕谷和夫の観察日記



12月5日、八王子・高月水田の12月の野鳥定期カウント。ノスリが上空に現れて旋回飛翔していました。地上の草の生えている農道ではセイヨウタンポポが開花し、ベニシジミが吸蜜に来ていました。昔であればもう冬で、この時期にタンポポの花が咲いたり、チョウが舞ったりしなかつたはず、冬眠を未だ始めない熊もいるようですね。



オオヨシキリの古巣（12月5日）。場所は高月水田の休耕田のごく小規模のヨシハラ。今年の7月1日の野鳥定期カウントの時、このヨシハラの中の数か所からオオヨシキリのさえずりが聞こえてきたが中を覗いても巣は見つけられなかった懸案事項がようやく解決しました。それは丁度農家の方がヨシを刈っていたのでヨシハラの中の古巣の写真を撮ることができました

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。